

調査理由：詳細分布調査

調査地：松前町字神明 69 ほか

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 7 日～7 月 30 日

調査面積：34 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

バッコ沢牢屋跡遺跡は、『史跡 大館跡』の東側を流れるバッコ沢沿いに位置します。平成 17 年、大雨による水害が発生したことから、氾濫源となったバッコ沢沿いに砂防ダムの建設計画が持ち上がりました。砂防ダムは、大館跡を形成する丘陵の法面にかかるもので、当該地点の水没は免れず、大館跡及び周辺環境に致命的な影響を及ぼすことが予想されたため、詳細分布調査を行いました。

バッコ沢は、ロシア軍人ゴローニンらを幽閉した場所として一般に知られています。ゴローニンは、ロシア軍艦ディアナ号艦長でしたが、文化 8 年 (1811) に国後島で捕えられ、松前へと連行されます。最初は、元松前藩重臣宅の空家を改装した牢獄で捕虜として抑留されますが、翌年、ゴローニンら 6 名は、ムール少尉とアレキセイ通訳を残して脱走、しばらくして木ノ子村 (上ノ国町) で捕縛されました。その後、大松前川支流のバッコ沢にある牢屋へと収容されました。

昨年度の調査では、土塁や、建物礎石などの遺構を確認しています。今年度は、土塁南側で、建物礎石を 10 基検出しました (うち 4 基は昨年度確認済み)。礎石の柱間は心々で 6 尺 (約 180 cm) です。土塁は裾幅 4 丈 (約 12m)、最大比高差 1 丈 (約 3m) で、土塁の北側には浅い溝があり、さらに北側では敷石様遺構を検出しました。



建物礎石検出状況



敷石様遺構

ゴローニンの手記によれば「・・・城から一ヴェルスタ [約一キロ] 程の距離にある獄舎へ私達は連れて行かれた。(中略) 町の獄舎は切り立った崖の真下に位置し、二重の柵が取り囲み、土塁が防御壁として積まれていた。」(S. V. ゴローニン, 1824 斉藤智之訳, 2006 『日

本幽囚記Ⅱ』p44～45)とあり、福山城(当時は福山館)からの距離感、大館跡と日枝社通遺跡という二つの台地に挟まれた地点、土塁というように、立地条件がゴローニンの記述と一致します。なお、今回の調査では、二重の柵に相当する遺構は検出されませんでした。

遺物は19世紀中葉の陶磁器類が多く、なかには中世、松前大館(徳山館)の時期に帰属する中国産青磁もみられました。報告書は平成23年3月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

**松前町教育委員会** ( ☎ 0139-42-3060 ) または

**松前町発掘調査事務所** ( ☎ 0139-42-5330 ) まで